

コネクタ操作方法と注意点

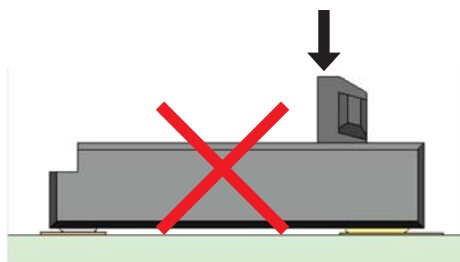
1. コネクタ実装状態

ロックレバー開放状態での納入となりますので、ケーブルを挿入する前に、ロックを操作する必要はありません。
(写真①参照)

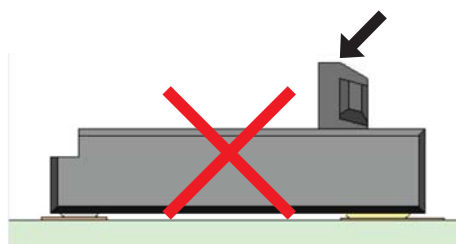
ロックレバーを閉じた状態でリフロー実装をしないで下さい。

ケーブル未挿入状態でロックレバーを閉じないでください。
ケーブル未挿入状態でロックレバーを閉じると、接点間Gapが狭くなり、ケーブル挿入力が上昇します。(写真②参照)

ロックレバー真上から、荷重をかけないで下さい。(図①参照)
又、反ロック方向に荷重をかけないで下さい。(図②参照)
ロックレバー破損、もしくは端子変形の原因となります。

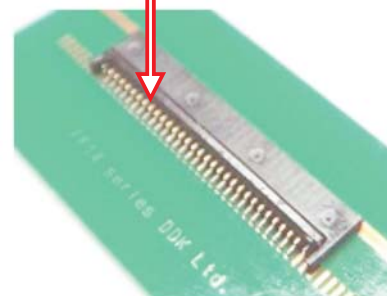


図①

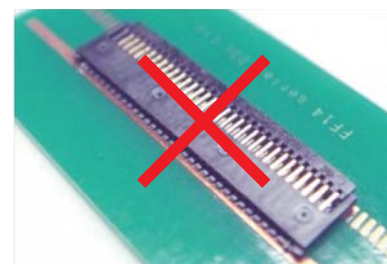


図②

納入時のロックレバーは解放状態です



写真①



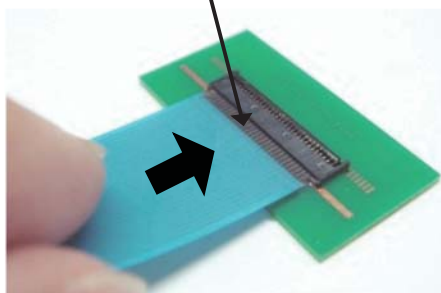
写真②

2. ケーブル挿入方法

上接点使用時にはケーブル導体面を上、下接点使用時には補強板面を上にして、挿入します。(上接点：写真③参照、下接点：写真④参照)

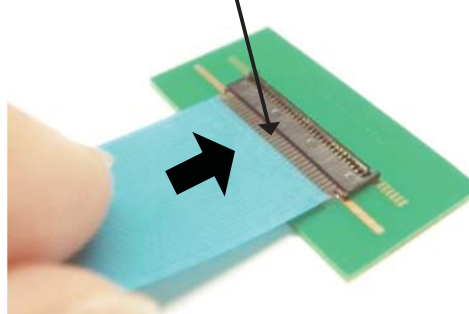
ケーブルをコネクタに対して真っすぐに挿入して下さい。
ケーブル仮保持機構を採用している為、挿入に若干の力が必要です。
ケーブルがしっかり奥まで挿入出来ているか、確認してください。

パターン面



写真③

補強板面



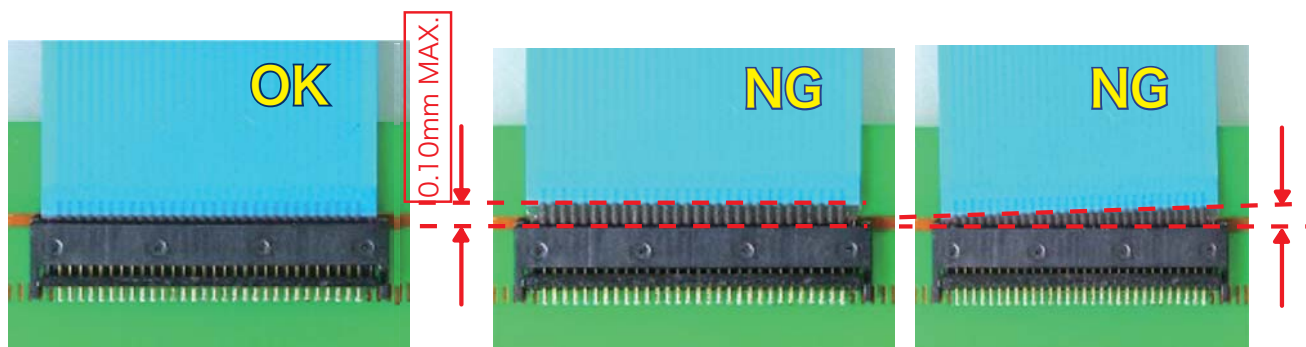
写真④

▶ コネクタ操作方法と注意点

3. ケーブル確認方法

3-1. ケーブル確認方法（上接点の場合）

ハウジング上壁直線と、ケーブルのパターン境界線を比較する事により、浅挿入、斜め挿入を、確認、防止する事が出来ます。（写真⑤、写真⑥、写真⑦参照）



写真⑤：正常挿入状態

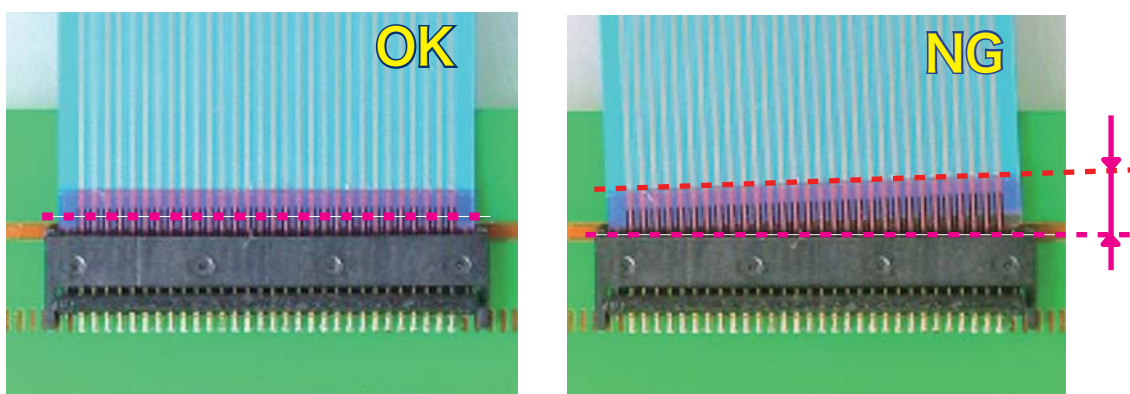
写真⑥：浅め挿入状態

写真⑦：斜め挿入状態

3-2. ケーブル確認方法（下接点の場合）

ハウジング上壁直線と、ケーブルの補強板境界線を比較する事により、斜め挿入を、確認、防止する事が出来ます。（写真⑧、写真⑨参照）

又、補強板に、ケーブルのパターン境界線と同じ直線をマーキングすることにより、上接点同様の、浅挿入確認を行う事が出来ます。（3-1. 参照）



写真⑧：正常挿入状態

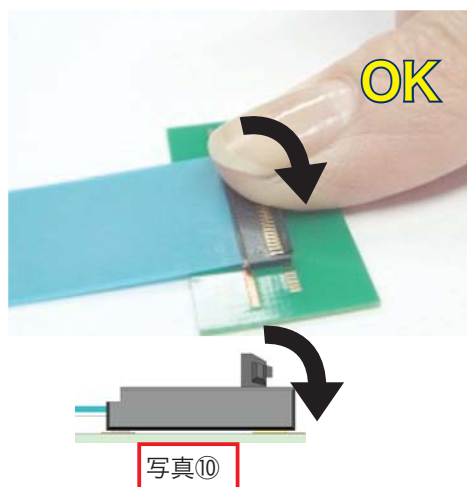
写真⑨：斜め挿入状態

▶ コネクタ操作方法と注意点

4. ロック方法

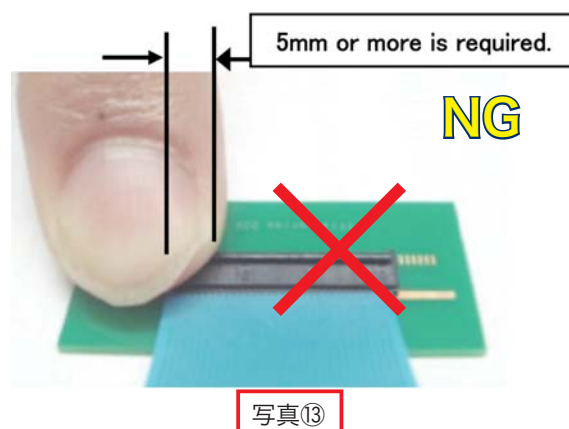
回転させる要領で、ロックレバーを押し下げます。(写真⑩参照)

その際に、ハウジングに無理な力をかけないように注意して下さい。(写真⑪参照)



爪の先端でロックしないでください。ロックレバー破損の原因となります。(写真⑫参照)

レバー端部をロックする場合は、少なくとも 5mm 以上の幅を押して下さい。(写真⑬参照)



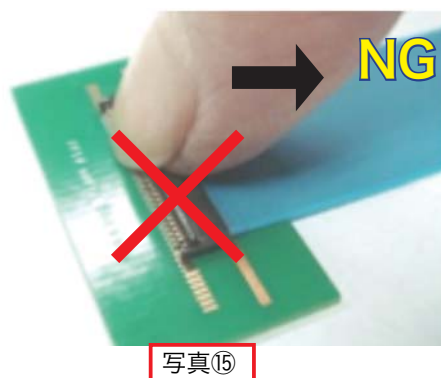
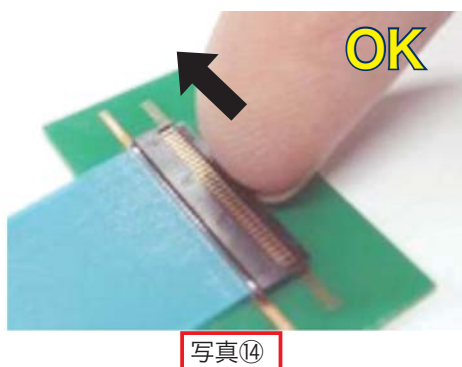
5. ケーブル抜去方法

ロックレバーを矢印方向に軽く跳ね上げる要領で、押し上げます。(写真⑭参照)

その際に、必要以上の力をロックレバーにかけないように注意して下さい。(写真⑮参照)

ロックレバーを操作する際、指先や爪等をコネクタアーム部に引っ掛けないよう注意して下さい。

コネクタアーム部破損の原因となります。



6. ESD(静電耐電圧)

本コネクタは、ESD 対策をしておりませんので、取扱時には注意して下さい。

©このカタログの仕様等は予告なく変更することがありますので、ご了承願います。製品を使用する際は、最新の納入仕様書で内容のご確認をお願い致します。